

# 絶滅危惧種 復活の兆し見て



市民に初公開される四つ池。オオモノサシトンボなどが観察できる＝我孫子市日の出

我孫子市日の出のNEC我孫子事業場内にある湖水池「四つ池」が9日、市民に初公開される。野鳥や昆虫類が生息する自然の宝庫だ。環境省の絶滅危惧種「オオモノサシトンボ」が、市民団体の協力による保全活動で復活の兆しにあり、観察できる。

四つ池は事業場の北西部 調査でオオモノサシトンボに大小四つあり、広さは が見えられた。体長約4計約1万2千平方。20 利根・信濃川流域と宮03年、我孫子野鳥を守 城県の全国十数カ所にしかる会と日本トンボ学会の 分布がなく、千葉県のリッ

## NEC我孫子「四つ池」9日公開

### トンボやタナゴ、市民団体と協力



絶滅危惧種のオオモノサシトンボ＝NEC提供



絶滅危惧種のゼニタナゴ＝手賀沼水生生物研究会提供

ドデータブックでも最重要保護生物に分類されている。

一方、ブルーギルなど池に住み着いた外来魚がトンボのヤゴを食べてしまい、個体数が減っていることもわかった。事業場は09年から、地元市民団体「手賀沼水生生物研究会」（約30人）と外来魚駆除活動を実施。周囲の樹木を切って日当たりをよくしたため、トンボが卵を産み付けるマコモなどの水草が復活し、今年には生息数が増える傾向にあるという。研究会代表の鈴木盛智さん(59)は「これまで1日5、6匹しか観

察できなかったが、先月末には20匹以上飛んでいた」と喜ぶ。

事業場は、国の絶滅危惧種で利根川流域では絶滅したゼニタナゴの野生復帰にも取り組む。体長6、7センチ。12年の池干しで、卵を産み付けるイシガイ約500体を発見。研究家の協力で15年秋、事業場内の人工池にイシガイを入れ、約50匹のゼニタナゴを飼っている。今春には30匹以上の稚魚が確認された。

9日の公開は午後1時から、日本トンボ学会員やタナゴ研究者らの説明を受けながら観察する。定員40人(先着順)。問い合わせは研究会の松本さん(04・7187・1704)へ。

(佐藤清孝)